

鹿大の
KAGOSHIMA
UNIVERSITY チカラ

水産学部

藤枝繁准教授(41)



漂着ごみ

「藤枝繁准教授はいい言つ。でも、運搬業者に今月9日、運搬するふる所を選んだ。5月15日に回収が始まる。

「むづやく第一歩。ただ、じみはたまぬから継続しないと意味がないです」

藤枝繁准教授はいい言つ。では、漂着ごみは一般廃棄物（一廃）か。それとも産業廃棄物（産廃）か。

「どちらのともない。『二廃』」

船籍のタンカー・ナホトカの重油流出事故。福井沖に座礁した。海岸に漂着したどうぶつを油を取り除くボランティア活動をするため、学生らと現地に向かつた。

その際、地元の旅館の男性から言われたこんな一言から、漂着じみにとりつかれるようになつた。

「油も大麥だつたけど、台湾、中国からもじみが流れてくる

漁の練習船に乗り、インド洋を航海していた。釣り上げたカジキマグロの胃の中から見つかったものは、インドネシア産のラーメンの袋。静岡沖の遠州灘で昨年、ミズウオからカメラのイルムケースが出てきた。

潮流を調査 解決策探る



韓国で06年、同国のNGOと合同で漂着ごみを集め、ライターを調べた=藤枝准教授提供

それでも最近はそうした条件が徐々に緩和されており、環境省も漂着ごみに関する法律をつくる方向で検討しているところ。

る。鹿児島の目の前を通つてくるから鹿児島で取つてくれれば流れでこないんだ」
03年5月から2年間、鹿児島湾の8地点で底引き網で海底のじみを回収した。コンビニエンストアのレジ袋、菓子パンや菓子類の袋、たばこのパッケージが多かった。
最初は浮遊しているが、徐々に汚れが付着し、沈んでいくのだ。

鹿児島湾の海底はすり鉢状で、深さ約15mとみなして約200km。潮流はあるものの、みなぎるなかなか湾外に出ないといふ。「鹿児島湾の海自体はきれい

13%というデータになつた。
中國から来るライターのほとんど
が、上海や香港といった大
陸部から台灣海峡を北上する船
に乗り、日本海に流れできてい

使い捨てライターに着目し、全国の358海岸に漂着する「イターワーク」約2万1千個を集め、消費国を調べた。51%は日本製だったが、中国・台湾18%、韓国

調査の結果、桜尾南部の湾を中心付近に1年間で983個のじみが増えていたことが分かった。年間で76%四方に1個がなる計算になる。

だが、底にたまつたくみはほと
んど捨えないんです」

た。「彼らの国々に『お前が悪い』と言つても解決につながらない。日本も太平洋にじみを流してゐる。日本は被濡者でもあり、加害者でもあるんですね」

解決策は、まだ見当たらぬ。漂着じみの処理をめぐる事業も使い勝手が悪い。じみの量は一千立方㍍以上、 $1\frac{1}{2}$ ㎢以内に堤防などの保全施設がある、水際から50㍍以内……。そんな条件がつくのは、台風や豪雨の自然災害で大量にじみが漂着してきたことを想定しているからだ。

それでも最近はそうした条件が徐々に緩和されており、環境省も漂着じみに関する法律をつくる方向で検討しているところだ。

「ただ回収するだけでなく、それがじみから来て、じみは流れれるのか。私たちはデータを示し、みんなに考えてもらいたいから」